

ご近所のお医者さん

☐ 720 ☐

柳原医院長

築山正嗣さん

—大阪市城東区

後遺症もある带状疱疹

最近診療をしていると带状疱疹帯状疱疹について聞かれることが多いです。身近な方がかかることもあれば、周囲で話題になることも増えているのでしょう。テレビCMのイメージも大きいようです。確かに以前に比べると患者さんも増えてきている印象です。

では带状疱疹とはいったいどんな病気なのでしょう。これは過去に水痘（水ぼうそう）にかかった人が発症する病気です。水痘が治った後もウイルスが体内

ワクチン予防が効果的

に潜伏しており、免疫力が低下すると、ウイルスが再活性化して起こるとされています。最初は皮膚の違和感や痛み、かゆみを感じ、数日から1週間程度で皮膚に分布している神経に沿って赤いぶつぶつや水ぶくれが出てきます。通常片側の顔や胸、背中、腰などに現れます。番町皿屋敷で有名なお岩さんの顔にできたのがおそらく带状疱疹なのではないかと言われています。

治療は早期の抗ウイルス薬内服となりますが、最初はぶつぶつが出ないことも多く、診断が難しいため治療が遅れることがあります。また問題になるのは皮膚が回復した後も周囲に神経痛の後遺症が残ることがある点です。特

にこれを「带状疱疹後神経痛」と呼び、ひどい人は日常生活に支障がでるほどです。

带状疱疹の予防にはワクチンが効果的です。万が一、発症してしまった場合でも症状を軽くする効果があり、神経痛の後遺症を減らすとされています。ワクチンは以前から使用されている生ワクチン（水痘ワクチン）と新しい不活化ワ

クチンの2種類があります。最近



は問い合わせが増えてきている一方で、特に新しいワクチンの値段が高額なこともあり、ためらわれる方も多くいるようです。そういった中、各自治体でも带状疱疹ワクチンに対して一部費用の補助が出るようになってきました（大阪市では2025年4月から65歳以上の方が対象）。この機会にかかりつけのお医者さんに相談してみたいかがでしょうか。

（府医師会広報委員会委員）